



牛窓町鹿忍樋ヶ谷出土
装飾付須恵器
(東京国立博物館 提供)



ここで作られた須恵器は
7世紀後半以降になると近
畿地方まで運ばれ、8世紀前半には
平城京でも使用されました。



花光寺山古墳 内行花文鏡
(東京国立博物館 提供)

牛窓湾周辺には、牛窓天神山古墳、黒
島古墳、鹿歩山古墳、波歌山古墳、一塚
山古墳の計5つの前方後円墳。吉井川
東岸の平野には、花光寺山古墳、築山古
墳、船山古墳、油杉山古墳、金鶏塚古墳、
亀ヶ原大塚古墳の計6つの前方後円墳。
さらに長船平野の南の本坊山古墳など
多くの古墳が築かれています。
築山古墳後部の頂部に残る阿蘇山
の凝灰岩を使った家形石棺や花光寺山
古墳周辺で出土した朝鮮半島とのわか
わりを示す軟質土器など、当時の豪族
たちの交易の広さを物語るものも数多
く出土しています。

中・四国地方最大の須恵器窯跡群、邑
久古窯跡群は、瀬戸内市、備前市に
またがり、約130基の窯跡
が確認されています。



本坊山古墳 蓮華文装飾付陶棺
(東京国立博物館 提供)

吉備文化の開化

吉備東部の奥津城と中・四国地方最大級の須恵器生産地

築山古墳、花光寺山古墳、邑久古窯跡群ほか

History of Setouchi City

The history of Setouchi City began almost as soon as the birth of Seto Inland Sea. You can see the remains of the beginning of its history at Kijima shell mound in Kijima Island. There are a number of historical sites; Kadota shell mound where Yayoi earthenware vessels called "Kadota-shiki" were found; many ancient tombs including Tsukiyama and Kekojiyama; and Okukoyosekigun the largest remains of earthenware kilns in the Chugoku Shikoku region. Setouchi City has seen the prosperity brought by the commercial and cultural exchanges since the beginning of time.

せとナビ

SETOUCHI NAVIGATOR

豊かな自然環境に恵まれた瀬戸内市は、古代より多くの人々が暮らす文化、交流の拠点でした。縄文時代の黄島貝塚から門田貝塚遺跡、築山古墳などの古墳、邑久古窯跡群のほか、中世・近世・近代の数多くの遺産がそのことを物語っています。「門田貝塚史跡公園」や「邑久郷土資料館」、「寒風陶芸会館」、「須恵古代館」など展示施設も充実しているほか、伝統を受け継いだ現代の作家たちによる創作も続けられており、数多くの文化財を楽しんでいただけるのが自慢です。ぜひ一度お越しください。



大嶋信正さん(邑久町尾張)
市文化財保護委員長の大嶋さん。地域の貴重な文化財を後世へ残すために尽力されています。

People loved this place from the ancient era and listened to the sound of the gentle breeze. Now you can experience the same breeze.

瀬戸内今昔

太古より人びとはこの地の風に耳を傾けていました。わたしたちもあの時と同じ風につつまれているのです。

瀬戸内海の誕生 豊かな農耕生活

縄文海進を語る遺跡 『黄島貝塚』

黄島貝塚は、牛窓沖に浮かぶ周囲約4kmの小さな島、黄島にあります。貝塚は上にハイガイを主とする貝層、下にヤマトシジミを主とする貝層に分かれています。ハイガイは遠浅の砂・沼地の海に住む貝で、ヤマトシジミは淡水と海水が混じる場所に住む貝です。これは黄島の周辺に徐々に海が広がっていたことを示しています。



黄島貝塚出土の土器片

氷河期が終わり、地球規模で海が広がっていったのが縄文時代のこと。このことを縄文海進と呼び、森が広がっていた瀬戸内海にも、この時期に海水が流れ込んできました。現在の瀬戸内海の誕生です。黄島貝塚は、瀬戸内海における縄文海進を語る貴重な遺跡であることから全国的に有名です。

弥生時代の拠点集落 『門田貝塚』

門田貝塚は、吉井川が形成した沖積平野につくられた集落遺跡です。遺跡の中心となる貝塚からはハイガイ、シジミなどの貝殻や「門田式」と呼ばれる瀬戸内海沿岸地域の弥生時代前期後半の基準資料となっている弥生土器がたくさん出土しました。そのことからこの地に集落がつけられたことが分かります。

また、弥生時代後期の竪穴住居跡も発掘され、「門田ムラ」は集落の規模を弥生時代後期にかけて拡大させ、瀬戸内海沿岸地域の拠点集落となっていたことが分かります。奈良時代の建物跡、鎌倉時代の井戸の跡など、その後の時代の遺構も数多く見つかかり、長期にわたって多くの人が暮らしていたことが分かります。



門田貝塚出土土器



門田貝塚史跡公園
貝塚調査時に採取した貝殻を使った貝塚や竪穴住居2棟が復元されています。



- A 花光寺山古墳
- B 築山古墳
- C 門田貝塚
- D 黄島貝塚